

岩手県議会情報公開事務取扱要綱

(平成12年 3 月 28 日 制定)
(平成13年 3 月 27 日 一部改正)
(平成16年 4 月 15 日 一部改正)
(平成19年 3 月 20 日 一部改正)
(平成20年 3 月 26 日 一部改正)
(平成21年 3 月 24 日 一部改正)
(平成24年 3 月 26 日 一部改正)
(平成25年 3 月 29 日 一部改正)
(平成28年 3 月 24 日 一部改正)
(平成30年11月 9 日 一部改正)
(令和 5 年 3 月 31 日 一部改正)

第 1 趣旨

この要綱は、別に定めがあるもののほか、岩手県議会情報公開条例（平成11年岩手県条例第61号。以下「条例」という。）に基づき、情報公開に関する事務の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

第 2 開示請求に関する事務

1 公開窓口

情報公開に関する事務を取り扱う窓口（以下「公開窓口」という。）は、議事調査課とする。

2 公開窓口で行う事務

- (1) 事務局の課（以下「担当課」という。）が保有する公文書の開示請求に係る相談、案内及び受付に関すること並びに文書提供（第 8 の規定に基づくものをいう。以下この項及び次項において同じ。）に係る相談、案内及び受付に関すること。
- (2) 担当課が行う公文書の開示の立会いに関すること。
- (3) 開示を行った公文書の写し、複製物又は公文書を紙その他これらに類するものに印字し、若しくは印画したものの写し（以下「公文書の写し等」という。）の交付及び送付に要する費用の徴収に関すること並びに第 8 の規定に基づく公文書の写しの提供並びに条例第 21 条第 1 項に規定する手数料（以下「手数料」という。）及び送付に要する費用の徴収に関すること。
- (4) 公文書を開示するかどうかの決定（以下「開示決定等」という。）又は開示請求に係る不作為に係る審査請求の受付に関すること。
- (5) 公開窓口配架されたファイル管理簿の写しの管理に関すること。
- (6) 情報公開事務の取扱いについての調整に関すること。

3 担当課で行う事務

- (1) 開示請求及び文書提供の申込みに係る公文書の検索及び特定に関すること。
- (2) 開示決定等及びその通知に関すること。
- (3) 開示決定等に係る県、国、独立行政法人等、県以外の地方公共団体、地方独立行政法人及び開示請求をした者（以下「開示請求者」という。）以外の者（以下「第三者」という。）に対する意見書提出の機会の付与に関すること。
- (4) 公文書の開示の実施に関すること及び第8の規定に基づく公文書の写しの提供に関すること。
- (5) 開示決定等又は開示請求に係る不作為に係る審査請求の要件審査に関すること。
- (6) 岩手県議会情報公開審査会（以下「審査会」という。）に対する意見の求め（以下「調査依頼」という。）に関すること。
- (7) 開示決定等又は開示請求に係る不作為に係る審査請求に対する裁決に関すること。
- (8) ファイル管理簿の作成に関すること。
- (9) 情報の提供に関すること。

第3 開示請求書の受付

1 相談及び案内

公開窓口の情報公開に関する相談があった場合は、相談の内容が条例に基づく公文書の開示請求として対応すべきものかどうかを確認し、公文書の開示請求が必要なものについては、条例第6条第1項の書面（以下「開示請求書」という。）の提出を求めるものとする。

相談の内容によっては、公文書の開示請求によらなくとも情報提供ができるものや他の制度の利用によるべきものがあるので、それぞれ、次のとおり対応するものとする。

(1) 情報の提供

広報紙、統計書等の資料により対応できるものや議会図書室等において公表しているものなどについては、その情報を提供する。

(2) 他の制度の利用

他の法令等の規定により閲覧等を行うことができるものについては、条例に基づく開示が行われない場合があるので（条例第17条）、これに該当する場合はその旨を説明し、担当課への案内等を行う。

なお、条例に基づく開示が行われないのは、他の法令等に基づく開示の方法と条例に基づく開示の方法が同一である場合に限られることから、例えば、他の法令等では、閲覧しかできないものについて、その写しを希望する場合や閲覧等の期間が定められている場合で、当該期間の前後において閲覧を希望する場合などは、条例が適用されるので、これらの場合には、公文書の開示が行われることに注意すること。

2 開示請求書の受付

(1) 開示請求書の受付

開示請求書の受付は、公開窓口が行うものとする。なお、担当課に直接相談があった場合には、担当課は、情報の提供や他の制度の利用等で対応できる場合を除き、公開窓口

案内するものとし、開示請求書が送付され、又はファクシミリを利用して送信された場合は、直ちに、この旨を公開窓口に関連するとともに、当該開示請求書を公開窓口へ送付するものとする。

(2) 開示請求の方法

ア 開示請求書は、条例第6条第1項各号に掲げる事項が記載されていれば任意の様式で足りるものであるが、標準的な様式を例示すれば参考様式のとおりである。

イ 開示請求は、公文書の開示を請求する者が、開示請求書を公開窓口へ提出することにより行うものとする。

ウ 開示請求に当たっての必要な要件が満たされている場合には、送付により、又はファクシミリ若しくは電子申請システムを利用して送信することにより開示請求書を提出することができるものとする。

エ 送付による場合の送付先、ファクシミリを利用する場合の送信先及び電子申請システムを利用する場合のホームページアドレスは、次のとおりとする。

(ア) 送付先 〒020-8570岩手県盛岡市内丸10番1号 岩手県議会事務局議事調査課（公開窓口）

(イ) 送信先 019-629-6014

(ウ) アドレス <https://s-kantan.com/pref-iwate-u/>

オ 口頭、電話等による開示請求は認めないものとする。

(3) 開示請求書の受付に当たっての注意事項

ア 開示請求の手続は、本人が行うことを原則とするが、代理関係を証明する書類（委任状等）の提出があった場合には、代理人により行うことができるものとする。

イ 開示請求をする者が身体の障がい等により、自ら開示請求書に記載することが困難な場合は、公開窓口の職員が代筆するなど適当な方法により対応することができるものとする。

ウ 開示請求書がファクシミリを利用して送信された場合には、開示請求をした者（以下「開示請求者」という。）に、電話等により、開示請求書が送信された旨を連絡するものとする。

エ 開示請求書が電子申請システムを利用して送信されたことが確認され、紙に出力した場合には、開示請求者に、電子メール又は電話等により、開示請求書が送信された旨を連絡するものとする。

(4) 開示請求書の記載事項の確認

公開窓口では、開示請求書の提出があった場合は、次の事項について確認するものとする。

ア 開示請求をする者の氏名又は名称

(ア) 個人の場合は氏名、法人その他の団体の場合は名称並びに代表者の氏名が記載されていること。

(イ) 代理人による請求の場合は、本人の氏名又は名称に続けて、『代理人A市B町〇番〇号（代理人氏名）』のように記載されていること。

(ウ) (ア)、(イ)いずれの場合も押印は要しないこと。

イ 開示請求をする者の住所

個人の場合は住所又は居所、法人その他の団体の場合は事務所又は事業所の所在地が記載されていること。

なお、開示請求者に迅速かつ確実に連絡するため、電話番号（自宅、勤務先等）、担当者氏名等の記載を求めるものとする。

ウ 公文書の名称その他の公文書を特定するに足りる事項

公文書の名称又は知りたいと思う事項の内容が、公文書を特定できる程度に具体的に記載されていること。

(注) 参考様式の「開示の実施の方法」欄について

開示の実施の方法については、条例第16条第3項の規定により、公文書の全部又は一部を開示する旨の通知があった日から起算して30日以内に申し出ることとされていることから、当該欄に記載するかどうかは開示請求者の任意であるが、開示請求を行う時点で希望する開示の実施の方法が確定している場合は、あらためて申出を求めることは合理的でないことから、当該欄を設けたものである。

なお、開示請求書に開示の実施の方法が記載されている場合は、別に申出がない限り、当該記載をもって、条例第16条第2項に規定する開示の実施の方法等の申出とみなすこととしている。(岩手県議会が保有する公文書の開示等に関する規程第6条第2項)

(5) 請求書の補正

ア 記載事項に記入漏れがあるなど形式上の不備がある場合は、開示請求者に対して当該箇所の補正を求めるものとする。

イ 送付により、又はファクシミリ若しくは電子申請システムを利用して送信することにより開示請求書が提出された場合には、必要部分の補正を文書で求めるものとする。

ウ 補正を求めた場合にあっては、補正の参考となる情報の提供に努めることとされていること（条例第6条第2項）、当該補正に要した日数については、後述の開示決定期間に算入されないこと（条例第12条第1項）に注意する必要がある。

エ 開示請求者が補正に応じない場合には、当該開示請求が不適法であることを理由とする非開示決定を行うこととなる。

(6) 開示請求の取下げ

ア 開示決定等が行われるまでの間に開示請求者から開示請求の全部又は一部を取り下げる旨の申出があったときは、公文書の探索その他の主要な事務に着手をしていない場合に限り、当該申出に係る書面（以下「開示請求取下書」という。）の提出を求めるものとする。

イ 開示請求取下書に記載すべき事項は、おおむね次のとおりとする。

(ア) 開示請求者の氏名又は名称及び住所又は居所並びに法人その他の団体にあつては代表者の氏名

(イ) 開示請求書の日付又は開示請求書を提出した日付

(ウ) 開示請求書の「公文書の名称その他の公文書を特定するに足りる事項」欄に記載した事項（取下げが開示請求の一部である場合においては、当該記載した事項のうち

ち取り下げる内容)

- ウ 開示請求取下書の受付は、原則として公開窓口で行うものとする。
- エ 開示請求取下書の提出については、(2)に定める取扱いに準ずるものとする。
- オ 開示請求取下書の送付等については、3(2)に定める取扱いに準ずるものとする。
- カ 担当課は、公開窓口から開示請求取下書の送付を受けた場合には、これを供覧し、事案の処理を終了するものとする。ただし、取下げが開示請求の一部である場合は、この限りでない。

3 開示請求書の取扱い

公開窓口で開示請求書を受け付けた後は、次により処理するものとする。

(1) 開示請求者に対する説明等

開示請求書を受け付けた場合は、当該請求書へ收受印を押印し、その写しを開示請求者に交付又は送付するとともに、開示請求者に対し、次の事項を説明するものとする。

なお、收受印の月日は、後述の開示決定等の期間の起算日となることに注意すること。

ア 開示請求に係る公文書の開示決定等は、請求書を受け付けた日から起算して15日以内に行うが、やむを得ず延長する場合があること。

イ 開示決定等は書面により通知し、開示する場合は、開示を実施する日時、場所、手数料及び条例第21条第5項に規定する送付に要する費用（以下「手数料等」という。）についても、同書面で通知すること。

ウ 開示請求を行う場合は、手数料等を開示請求者が負担しなければならないこと、また、送付を希望する場合は、これに加え、送付に必要な費用を負担しなければならないこと。

エ 開示請求の内容（以下「請求内容」という。）が広範囲にわたる又は長期間に及ぶ場合は、公文書の数が多くなり、手数料等が高額になり得ること。

(2) 開示請求書の送付等

開示請求書の写しを保管した上で、直ちに、当該開示請求書を担当課へ送付するものとする。

第4 開示決定等

1 内容の検討

担当課は、開示請求があったとき、請求内容が広範囲にわたる又は長期間に及ぶ場合は、必要に応じて、開示請求者に対して請求内容を確認するものとする。

また、開示請求に係る公文書に記録されている情報が条例第7条各号に規定する情報（以下「非開示情報」という。）に該当するかどうかを検討するものとする。

2 開示決定等の期限

原則として、開示請求があった日から起算して15日以内に開示決定等を行わなければならない。

なお、公開窓口において請求書を受け付けた日をもって、開示請求があった日として取り扱うものとする。

3 開示決定等の期限の延長

- (1) 事務処理上の困難その他正当な理由により開示決定等の期限を延長する場合は、担当課は、開示請求があった日から起算して15日以内に開示決定等期間延長通知書（様式第1号）により、開示請求者に通知するものとする。
- (2) 延長した場合の期限は、開示請求があった日から起算して45日を限度とすることとされているが、延長期限を45日としたのは、開示請求のあった公文書に、第三者に関する情報が記録されているときに、当該第三者に意見書を提出する機会を保障するために必要な期間の確保に配慮したものであることから、これ以外の場合にあつては、開示決定等の期限が原則として15日以内とされていることを勘案し、延長したときでも、開示請求があった日から30日以内に開示決定等を行うよう努めるものとする。
- (3) 決定期限の延長を行った場合は、担当課は、開示決定等期間延長通知書の写しを公開窓口を送付するものとする。

4 開示決定等の期限の特例

- (1) 請求に係る公文書が著しく大量であるため、開示請求があった日から起算して45日以内にそのすべてについて処理することが不可能な場合、また、そのすべてについて処理することで通常の事務の遂行に著しい支障が生ずる場合は、開示請求に係る公文書のうち相当の部分について45日以内に開示決定等をし、残りの公文書については相当の期間内に開示決定等を行うことができるが、この場合は、担当課は、請求があった日から起算して15日以内に開示決定等期間特例延長通知書（様式第2号）により、開示請求者に通知するものとする。

なお、第4の3の「決定期限の延長」を行った後、更に「開示決定等の期限の特例」を適用することはできないことに注意すること。

- (2) 開示決定等の期限の特例を適用した場合は、担当課は、開示決定等期間特例延長通知書の写しを公開窓口を送付するものとする。

5 第三者に関する情報

開示請求のあった公文書に、第三者に関する情報が記録されているときの取扱いは、「第5 第三者に関する情報の取扱い」によるものとする。

6 開示決定等の決裁

開示決定等は、岩手県議会事務局代決専決規程（昭和44年岩手県議会訓令第4号）第8条の規定により、課長及び担当課長の専決事項である。ただし、特に重要であると認められる事案については、同規程第5条の規定により、上司の決裁を受けなければならない。

7 内部調整

開示決定等に当たっては、次により内部調整を行うものとする。

- (1) 議事調査課との協議

担当課は、開示決定等に当たっては、議事調査課に協議するものとする。

(2) 関係課等との調整

担当課は、開示の請求に係る公文書に他の課が所掌する事務に係る情報が記録されている場合又は議会以外の県の機関が作成したものである場合には、当該関係課又は機関と連絡をとり、調整を行うものとする。

8 開示決定等の内容及びその通知

(1) 全部開示決定

担当課は、開示請求に係る公文書に非開示情報に該当する情報が記録されていないときは、公文書の全部を開示する旨の決定を行い、公文書開示決定通知書（様式第3号）により開示請求者に通知するものとする。

(2) 部分開示決定

担当課は、次の場合には、公文書の一部を開示する旨の決定を行い、公文書部分開示決定通知書（様式第4号）により開示請求者に通知するものとする。

ア 開示請求に係る公文書の一部に非開示情報が記録されている場合で、その部分を容易に区分して除くことができるとき。

このことから、容易に区分してできないときは部分開示の義務はないことになるが、「容易に区分してできないとき」とは、非開示情報の記載部分の区分けが困難な場合だけでなく、区分けは容易であるがその部分の分離が技術的に困難な場合も含まれるものであり、例えば、同一の音声テープやビデオテープの中に、非開示情報が含まれている場合は、この部分を分離し、視聴させることは技術的に困難であることから、非開示決定を行うこととなる。

イ 条例第7条第2号の情報（特定の個人を識別することができるものに限る。）で、氏名等特定の個人を識別することができる記録を除くことにより、個人の権利利益が害されるおそれがないと認められるとき。

(3) 非開示決定

担当課は、次の場合には、公文書の全部を開示しない旨の決定を行い、公文書非開示決定通知書（様式第5号）により開示請求者に通知するものとする。

ア 開示請求に係る公文書に非開示情報に該当する情報が記録されており、かつ、部分開示も行うことができないとき。

イ 開示請求に係る公文書の存否を明らかにしないで開示請求を拒否するとき。

ウ 開示請求に係る公文書を保有していないとき。

エ 開示請求が不適法であるとき。

(4) 公文書の存否を明らかにしないで開示請求を拒否するときの取扱い

担当課は、公文書の存否を明らかにしないで開示請求を拒否しようとするときは、当該情報の内容及び公文書の存在を明らかにできない理由を明示した上で、議事調査課に、その適否について協議するものとする。

(5) 公文書開示決定通知書等の記載事項

公文書開示決定通知書（様式第3号）、公文書部分開示決定通知書（様式第4号）及び公

文書非開示決定通知書（様式第5号）（以下「決定通知書」と総称する。）の記載事項等は、次のとおりとする。

ア 「公文書の表示」欄（様式第3号、第4号及び第5号）

公文書の題名や内容など当該公文書を特定できる事項を記載すること。

イ 「開示を実施する日時」欄（様式第3号及び第4号）

開示を実施する日時を記載する。この場合、開示請求者と事前に電話等で連絡をとり、互いに都合の良い日時を指定することが望ましい。

なお、開示を実施することができる日を明らかにする意味があることから、公文書の写し等を送付する場合にあっても開示を実施する日時を記載することとし、その場合、「公文書の写し等は、開示を実施する日以降で手数料等の納入が確認された後に送付するものである」旨を付記することとする。

ウ 「開示を実施する場所」欄（様式第3号及び第4号）

開示の場所は、情報公開室とする。

なお、開示請求書において、送付による公文書の写し等の交付の希望を記載し、開示決定までにその内容に変更がないことが確認された場合には、開示を実施する場所の記載を省略することができるものとする。その場合、開示を実施する場所の欄には、「送付により公文書の写しを交付するため記載を省略する」などと記載する。

エ 「手数料等」欄（様式第3号及び第4号）

全部開示決定及び部分開示決定（以下「開示決定」という。）を行う場合に、手数料等の額を記載するものとする。

なお、開示する公文書の件数が複数ある場合には、必要に応じて、別に定める内訳表（様式第4号及び第5号共通。以下「内訳表」という。）を作成し、特定した公文書及び手数料の額を明確にすることとする。

オ 「開示の実施の方法等の申出に関する事項」欄（様式第3号及び第4号）

開示決定に係る公文書の開示の実施の方法等について、申出を求める月日を指定するものとする。

なお、申出を求める月日は、公文書の写し等の交付を求められた場合に開示を実施する日時に交付が可能となるよう、公文書の写し等の作成に必要な日数を勘案して設定するものとする。（第6の2参照）

カ 「開示をしない部分」欄（様式第4号）

開示をしない情報の概要を記載するものとする。

キ 「上記部分を開示しない理由」欄（様式第4号）又は「開示をしない理由」欄（様式第5号）

非開示事項のいずれかに該当する場合は、その該当号及び理由を具体的に記載するものとし、複数の号に該当する場合は、各号ごとにその理由を記載するものとする。

なお、開示請求に係る公文書の存否を明らかにしないで開示請求を拒否するとき又は開示請求に係る公文書を保有していないこと若しくは開示請求が不適法であることを理由に開示しないときについても、その旨及びその理由を具体的に記載する必要があることに注意すること。

ク 「開示請求手数料」欄（様式第5号）

非開示決定を行う場合に、開示請求手数料の額を記載するものとする。

(6) 決定通知書の写しの送付

開示決定等を行った場合、担当課は、決定通知書の写し（必要に応じて内訳表を添付）を公開窓口へ送付するものとする。

なお、開示請求者が送付による公文書の写し等の交付を希望する場合は、公開窓口に対し納入通知票の発行を併せて依頼するものとする。

第5 第三者に関する情報の取扱い

1 意見書提出の機会の付与

担当課は、請求のあった公文書に、第三者に関する情報が記録されているときは、必要に応じ、当該第三者に意見書を提出する機会を与えるものとする。

ただし、次の場合は、第三者の所在が判明しない場合を除き、第三者に意見書を提出する機会を与えなければならないことに注意すること。

- (1) 第三者に関する情報が記録されている公文書を開示しようとする場合であって、当該情報が条例第7条第2号イ又は同条第3号ただし書に規定する情報に該当すると認められるとき。
- (2) 第三者に関する情報が記録されている公文書を条例第9条の規定に基づき開示しようとするとき。

2 機会の付与方法

担当課は、第三者に対して書面（様式第6号）により、意見書の提出を求めるものとする。

3 第三者への通知

担当課は、第三者から意見書の提出があった公文書について開示決定を行った場合は、当該意見書において開示に反対の意思を表示しない場合にあっても、当該第三者に対し、書面（様式第7号）によりその旨を通知するものとする。また、非開示決定を行った場合には、口頭又は書面で通知するものとする。

4 第三者が開示に反対する旨の意見書を提出した場合の取扱い

第三者が当該公文書の開示に反対の意思を表示した意見書を提出した場合において、開示決定を行ったときは、開示決定の日と開示を実施する日との間に少なくとも2週間を置かなければならないことに注意すること。

第6 公文書の開示

1 開示の方法

(1) 文書又は図画の開示の方法

ア 閲覧の方法

原則として、原本を閲覧に供するものとする。ただし、原本を閲覧に供することにより、当該公文書を汚損し、又は破損するおそれがあるとき、日常業務に使用している台

帳等を提示する場合で提示することにより日常業務に支障をきたすとき、部分開示を行う場合その他正当な理由があるときは、原本を複写した物を閲覧に供するものとする。

なお、この場合、複写に要する費用は徴収しないものとする。

また、当該公文書の閲覧に際し、開示請求者から、カメラ、デジタルカメラ、カメラ付き携帯電話、ビデオカメラ、携帯複写機、スキャナその他これらに類する機器（以下「カメラ等」という。）による撮影、複写又は読み取り（以下「撮影等」という。）の申出があったときは、撮影等に必要なカメラ等、什器、電源等を持参する場合に限り使用を認めるものとする。ただし、閲覧時に、カメラ等を当該公文書の撮影等以外に使用した場合その他事務上相当な理由がある場合は、その使用の中止を命ずることができる。

イ 写しの作成及び交付の方法

- (ア) 公文書の原本又はそれを複写したものについて、乾式の複写機により作成した写しを交付することにより行うものとする。なお、写しの用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 3 番、B 列 4 番、A 列 4 番又は B 列 5 番とする。この場合、写しの作成は、原則として担当課の職員が行うものとする。
- (イ) 公文書の写しは、原則として白黒で作成するものとするが、カラーの地図、図面等については、カラーコピー機により作成した写しを交付することができるものとする。この場合は、あらかじめ開示請求者の意向を確認する。
- (ウ) 乾式の複写機による複写が困難な場合は、業者に委託するなどの方法により写しを作成するものとする。
- (エ) 著作権法による保護を受ける著作物であっても、条例の規定に基づき開示する場合には、当該著作物を開示することができる場合があること。
なお、未公表の著作物については、開示する旨の決定の時までに著作者が別段の意思表示をした場合には、開示することができないので留意すること。

ウ 部分開示の方法

- (ア) 開示部分と非開示部分がページ単位で区分できる場合
非開示部分をクリップで挟み閉ざしたもの、非開示部分を袋で覆ったもの等により開示する。
 - (イ) 開示部分と非開示部分が同一ページにある場合
非開示部分を黒色の遮へい物で覆って複写したもの、該当ページを複写した上で非開示部分を黒インク等で塗りつぶし、再度複写したもの等により開示する。
- (2) 電磁的記録の開示の方法

ア 紙その他これに類するものに印字し、又は印画したものの閲覧又は写しの交付による方法

事務局が保有する電子計算機その他の機器を用いて紙その他これに類するものに印字し、又は印画することができるものについては、紙その他これに類するものに印字し、又は印画したものを閲覧に供し、又はその写しを交付するものとする。

この場合の紙等に印字し、又は印画したものの閲覧及び写しの交付については、文書又は図画の場合と同様に行うものとする。

イ 閲覧若しくは視聴又は複製物の交付による方法

磁気テープ、磁気ディスク、光ディスクその他これらに類するもの（以下「磁気テープ等」という。）に記録された電磁的記録で、事務局が保有する電子計算機その他の機器を用いて閲覧し、若しくは視聴し、又は複製物を作成し交付することが可能なものについては、当該方法により行うものとする。

ただし、同一の磁気テープ等（録音テープ及びビデオテープを除く）に非開示情報が含まれている場合は、その部分を分離したうえで視聴若しくは閲覧又は複製物を作成することは技術的に困難であることから、当該方法による開示は行わず、紙その他これに類するものに印字し、又は印画したものの閲覧又は写しの交付の方法により対応することとなる。

なお、同一の録音テープ又はビデオテープに非開示情報が含まれている場合は、これを分離することは技術的に困難であることから、非開示情報が含まれている録音テープ又はビデオテープについては開示を行わない。

2 開示の実施の方法等の申出

- (1) 担当課は、開示決定を行った場合は、公文書開示決定通知書又は公文書部分開示決定通知書（必要に応じて内訳表を添付）に、開示方法等申出書（様式第8号）を添付の上送付するものとする。
- (2) 送付を受けた開示請求者は、開示方法等申出書（様式第8号）により、開示の実施の方法等の指定又は変更を申し出ることができる。また、最初に開示を受けた日から起算して30日以内に限り、更なる開示を申し出ることができる（条例第16条第4項。以下「再開示の申出」という。）。
- (3) 担当課等は、前項の申出があったときは、開示実施日等通知書（様式第9号）により開示請求者に対し通知するものとする。

3 開示の実施

(1) 開示を実施する日時及び場所

公文書の開示は、開示請求に係る公文書の写し等を送付する場合を除き、決定通知書によりあらかじめ指定した日時及び場所において行うものとする。

なお、決定通知をした後、開示請求者がやむを得ない事情により、あらかじめ指定した日時に開示を受けることができない場合は、別の日時に公文書の開示を実施するものとする。

(2) 開示の準備

ア 担当課は、開示の指定時刻までに、開示の場所へ開示請求に係る公文書を搬入し、待機するものとする。

イ 担当課は、破損等のおそれがあるなどの理由により、原本を複製したものを開示する場合は、あらかじめ当該文書の写しを準備するものとする。

(3) 決定通知書の提示

担当課は、開示の場所に来庁した者に対して決定通知書の提示を求め、開示請求者本人であること、公文書の表示等の確認を行うものとする。

(4) 公文書の閲覧又は視聴の実施

公開窓口において、開示請求者に対して、公文書の写し等の交付等申込書（様式第10号。以下「申込書」という。）の提出を求めるものとする。また、担当課は、公文書を提示し、開示請求者の求めに応じて当該公文書の内容等について説明するものとする。

なお、公開窓口を担当する職員は、原則として、この閲覧又は視聴に立ち会うものとする。

(5) 公文書の写し等の交付

ア 申込書の提出

公開窓口において、開示請求者に対して、申込書の提出を求めるものとする。

イ 開示当日に写しの交付を求められた場合の取扱い

当初の開示の実施の方法の申出が閲覧のみである場合であって、開示の当日に公文書の写し等の交付を求められたときは、再開示の申出として取扱い、開示方法等申出書（様式第8号）の提出を求めるものとし、可能である場合はその場で公文書の写し等の交付を実施して差し支えないものとする。この場合、開示を実施する日時等の通知（第6の2(3)）は省略できるものとする。

ウ 閲覧又は視聴に引き続き電磁的記録の複製物の交付を求められた場合の取扱い

複製物の作成に時間を要する場合には、その旨開示請求者に説明し、複製物が交付できる時間を伝えるものとする。

なお、当日複製物を開示請求者が受領できない場合は、送付により交付することとし、申込書の提出を求めるものとする。

(6) 指定日以外の公文書の開示の実施

請求者がやむを得ない理由により、指定した日時に公文書の開示を受けることができない場合には、別の日時に公文書の開示を実施することができるものとする。この場合、担当課は、改めて決定通知書又は開示実施日等通知書は送付しないものとし、当初の決定通知の発議書等に変更した日時を記載するものとする。

なお、日時を変更した場合は、その旨を公開窓口連絡するものとする。

第7 手数料等の徴収

1 手数料等の額

(1) 手数料

徴収する手数料の額は次のとおりである。

ア 開示請求に係る手数料

開示請求に係る公文書1件につき300円（条例第21条第1項第1号）

なお、一のファイル（公文書の管理に関する条例第5条第2項に規定するファイルという。）にまとめられた複数の公文書や、相互に密接な関連を有する複数の公文書は、1件の公文書とみなす。（条例第21条第2項）

イ 公文書の開示の実施に係る手数料

公文書の写し等の交付に要する複写料金等に相当する額であり、その額は、条例別表に定めるとおりである。ただし、当該複写料金等相当額が、300円未満の場合は無料であ

り、300円を超える場合は、当該超える額である。(条例第21条第1項第2号)

(2) 送付に要する費用

開示請求者が公文書の写し等について送付を希望する場合は、送付に要する郵便料金等に相当する額の負担を求める。(条例第21条第5項)

(3) 再開示の申出の場合の例外

開示請求者が再開示の申出を希望する場合の手数料の額の例外は次のとおりである。

ア 開示請求に係る手数料

再開示の申出のあった公文書が、既に関示の実施を決定した公文書と同一の公文書とみなすことができる場合には無料である。

イ 公文書の開示の実施に係る手数料

再開示の申出の実施に係る当該手数料に既に関示の実施を決定した公文書に係る当該手数料を加えた額が300円未満の場合は無料であり、300円を超える場合は、当該超える額である。

2 手数料等の徴収の方法

(1) 現金で徴収する場合

出納員又は現金取扱員が会計規則の定めるところにより、現金で徴収するものとする。

出納員は、現金の納付を受けたときは、開示請求者に対し、手数料等領収票(様式第11号)を交付するものとする。

(2) 納入通知票により徴収する場合

公開窓口は、第4の8(6)により担当課に納入通知票の発行を依頼された場合は、速やかに発行の上、担当課に送付するものとする。

担当課は、公開窓口から送付された納入通知票を開示請求者に送付し、手数料等を金融機関に納付させるものとする。この場合、担当課は、原則として納入通知票と決定通知書を併せて送付するものとする。ただし、納入通知票の作成が開示決定等の期限までに行われない場合は、決定通知書のみを当該期限までに発送の上、納入通知票については、公開窓口から直接送付させるものとする。

担当課は、手数料等が納付されたことを確認した上で、開示請求者に対し、公文書の写し等を送付するものとする。

(3) 送付に要する費用の特例的取扱い

開示請求者から、郵送に要する費用の額に相当する郵便切手が提出された場合には、当該郵便切手を使用することにより、公文書の写し等の郵送を行うこととして差し支えないものとする。

3 収入の歳入科目

(1) 手数料の歳入科目は、次のとおりとする。

(款) 使用料及び手数料 (項) 手数料 (目) 手数料 (節) 議会

(2) 送付に要する費用の歳入科目は、次のとおりとする。

(款) 諸収入 (項) 雑入 (目) 雑入 (節) 議会

4 その他

既納の手数料は不還付であること。

第8 文書提供

非開示情報を含まない公文書及び非開示情報が容易に判断できる公文書については、担当課において、条例の規定による交付のほか、次の方法により、有償で公文書の写しを提供（以下「文書提供」という。）することができるものとする。

1 対象文書

条例の手続きによることなく提供することができる公文書の写しは、次に掲げる公文書の写しとする。

- (1) 既に公表している統計資料等
- (2) 過去に全部開示したことがある公文書など担当課において非開示情報が含まれていないことが容易に判断できる公文書
- (3) 過去に部分開示したことがある公文書など担当課において非開示情報が容易に判断できる公文書

2 複写方法

- (1) 非開示情報が含まれる場合の複写媒体は、紙に限るものとする。
- (2) 非開示情報が含まれる場合の取扱いは、第6の1(1)ウに定める方法に準ずるものとする。

3 費用の負担

担当課が上記1に掲げる公文書の写しを提供する場合、当該公文書の写しの作成及び送付に要する費用を徴収するものとし、写しの作成に要する費用の額は、条例別表（第21条関係）と同様とする。

ただし、事務事業の執行等のため報道機関に資料提供する場合のほか、次に掲げる文書については、文書作成の趣旨等から費用を徴収しないこととする。

- (1) 各種制度のパンフレットや普及啓発資料など事務事業の広報や普及啓発を目的に作成されたもの
- (2) 工事、委託契約等に基づいて、事務事業を相手方に実施させる上で必要なもの
- (3) その他担当課が無料で提供することが適当と認められるもの

4 提供の手続き

文書提供は、文書提供申込書（様式第12号）の提出をもって行い、文書提供に要する費用を徴収するものとする。

5 その他

文書提供は、文書の特定について、担当課と請求者との間で齟齬が生じないよう、原則と

して担当課の事務室において、請求者が公文書の内容を直接確認できた場合に行うものとする。

第9 審査請求があった場合の取扱い

開示決定等について、審査請求があった場合には、次により取り扱うものとする。

1 審査請求の受付

- (1) 開示決定等又は開示請求に係る不作為に係る審査請求書は、公開窓口において受け付けるものとする。
- (2) 公開窓口は、当該審査請求書を受け付けた場合には、その写しを保管した上で、直ちに当該審査請求書を、当該審査請求書に係る開示決定等又は開示請求に係る不作為を行った担当課に送付するものとする。

2 審査請求書の要件審査

(1) 記載事項の確認

担当課は、行政不服審査法（平成26年法律第68号）の規定に基づき、次の要件について確認するものとする。

ア 審査請求書の記載事項の確認

(ア) 開示決定等に係る審査請求の場合

- a 審査請求人の氏名又は名称及び住所又は居所
- b 審査請求に係る処分の内容
- c 審査請求に係る処分があったことを知った年月日
- d 審査請求の趣旨及び理由
- e 処分庁の教示の有無及びその内容
- f 審査請求の年月日
- g 審査請求人が、法人その他の社団若しくは財団である場合、総代を互選した場合又は代理人によって審査請求をする場合には、その代表者若しくは管理人、総代又は代理人の氏名及び住所又は居所

(イ) 開示請求に係る不作為に係る審査請求の場合

- a 当該不作為に係る処分についての申請の内容及び年月日
- b (ア) a、f 及び g の記載事項

イ 審査請求人（審査請求人が法人その他の社団又は財団である場合にあつては代表者又は管理人、審査請求人が総代を互選した場合にあつては総代、審査請求人が代理人によって審査請求をする場合にあつては代理人。（4）のウにおいて同じ。）の押印の有無

ウ 代表者若しくは管理人、総代又は代理人がある場合は、それぞれの資格を証明する書面（法人登記簿の謄本・抄本、代表者又は管理人を選任したことを証する総会議事録等の写し、代理人委任状等）の添付の有無

エ 審査請求期間内（開示決定等があったことを知った日の翌日から起算して3月以内）の審査請求かどうか。

オ 審査請求人適格の有無（開示決定等又は開示請求に係る不作為によって直接自己の権利利益を侵害された者かどうか。）

(2) 審査請求書の補正

担当課は、当該異議申立て審査請求が、上記(1)の要件を満たさず不適法なものであっても、補正することができる場合は、相当の期間を定めて補正を命ずるものとする。

(3) 審査請求についての却下の裁決

担当課は、当該審査請求が次のいずれかに該当する場合には、当該審査請求について却下の裁決を行い、裁決書の謄本を審査請求人に送付するものとする。この場合、担当課は、当該裁決書の写しを議事調査課に送付するものとする。

ア 審査請求が不適法であり、かつ、補正不能である場合

イ 補正命令に応じなかった場合

ウ 補正命令に定める補正の期間を経過した場合

(4) 審査請求の取下げ

ア 審査請求に対する裁決が行われるまでの間に審査請求人から審査請求の全部又は一部を取り下げる旨の申出があったときは、当該申出に係る書面（以下「審査請求取下書」という。）の提出を求めるものとする。

イ 審査請求取下書に記載すべき事項は、おおむね次のとおりとする。

(ア) 審査請求人の氏名又は名称及び住所又は居所

(イ) 審査請求書の日付又は審査請求書を提出した日付

(ウ) 審査請求に係る処分の内容

(エ) 取下げが審査請求の一部である場合においては、審査請求書に記載した審査請求の趣旨及び理由のうち、取り下げる内容

ウ 審査請求取下書には、審査請求人の押印を求めるものとする。

エ 審査請求取下書の受付は、担当課において行うものとする。

なお、公開窓口に審査請求取下書の提出があった場合には、直ちに、当該取下書を担当課に送付するものとする。

オ 担当課は、審査請求取下書を受け付けた場合、当該取下書へ收受印を押印し、その写しを議事調査課に送付するものとする。

カ 担当課は、オにおいて受け付けた審査請求取下書を供覧し、事案の処理を終了するものとする。ただし、取下げが審査請求の一部である場合は、この限りでない。

3 開示決定等の再検討

(1) 担当課は、審査請求があったときは、直ちに開示決定等の再検討を行うものとする。

(2) 担当課は、再検討の結果、審査請求の全部を認容し、当該審査請求に係る公文書の全部を開示することが適当と判断した場合は、第三者から開示に反対の意思を表示した意見書（以下「反対意見書」という。）が提出されている場合を除き、原処分を取り消す裁決を行い、直ちに審査請求人へ裁決書謄本を送付するものとする。この場合、担当課は、当該裁決書の写しを議事調査課に送付するものとする。

なお、この場合、審査会の意見は要しないものである。

- (3) 担当課は、原処分を取り消す裁決が行われたときは、審査請求に係る公文書の全部を開示する旨の決定を行い、公文書開示決定通知書（様式第3号）により審査請求人に通知するものとする。この場合、担当課は、公文書開示決定通知書の写しを議事調査課に送付するものとする。

4 審査会への調査依頼

(1) 調査依頼の期日等

担当課は、次に掲げる場合を除き、審査会に調査を依頼するものとする。

ア 審査請求が不適法であり、却下する場合

イ 審査請求の全部を認容し、当該審査請求に係る公文書の全部を開示することとする場合（第三者から反対意見書が提出されているときを除く。）

(2) 調査依頼書の作成

担当課は、次に掲げる事項を記載した調査依頼書を作成するものとする。

ア 審査請求の対象となった公文書の表示

イ 審査請求に至る経過

ウ その他必要な事項

(3) 調査依頼書の提出

担当課は、調査依頼書に次に掲げる書類を添付して、議事調査課へ提出するものとする。

ア 審査請求書の写し

イ 公文書開示請求書の写し

ウ 公文書開示請求に対する決定通知書の写し

エ 弁明書

オ 反論書（審査請求人から提出された場合に限る。）

カ その他必要な書類（当該審査請求の対象となった公文書等）

(4) 調査を依頼した旨の通知

担当課は、審査会に調査を依頼した場合は、次に掲げる者に、岩手県議会情報公開審査会調査依頼通知書（様式第13号）により、調査を依頼した旨を通知するものとする。

ア 審査請求人及び参加人

イ 開示請求者（開示請求者が審査請求人又は参加人である場合を除く。）

ウ 当該審査請求に係る開示決定等又は開示請求に係る不作為について反対意見書を提出した第三者（当該第三者が審査請求人又は参加人である場合を除く。）

5 審査会が行う調査への対応

担当課は、審査会から次の事項について求めがあった場合は、これに応じなければならない。

なお、(2)又は(3)の資料又は意見書を提出する場合において、条例第29条第1項の規定により当該資料又は意見書の写しを審査請求人等に送付し、又は同条第2項の規定により当該資料又は意見書を審査請求人等に閲覧させることに支障があるときは、その旨及び理由を記載した書面を併せて提出しなければならない。

- (1) 開示決定等又は開示請求に係る不作為に係る公文書の提示
- (2) 開示決定等又は開示請求に係る不作為に係る公文書に記録されている情報の内容を審査会の指定する方法により分類し、又は整理した資料の作成・提出
- (3) (1)、(2)のほか、当該審査請求事案に係る意見書又は資料の提出

6 意見の陳述等

担当課は、必要があると認める場合は、審査会に対し、意見陳述の機会を求め、意見書若しくは資料を提出し、又は審査会に提出された意見書若しくは資料の閲覧を求めるものとする。

7 審査会の調査意見

議事調査課は、審査会から議長に調査意見書が提出された場合は、当該調査意見書を直ちに担当課へ送付するものとする。

なお、調査意見書は、審査会からその写しが審査請求人及び参加人に送付されるものである。

8 審理手続の終結

担当課は、行政不服審査法第9条第3項の規定により読み替えて適用する同法第41条第3項の規定による通知は、調査意見書が送付された後に行うものとする。

9 審査請求に対する裁決等

- (1) 担当課は、8の通知後、遅滞なく、審査会の意見を尊重して、当該審査請求に対する裁決を行うものとする。
- (2) 担当課は、審査請求に対する裁決を行った場合は、裁決書の謄本を審査請求人及び参加人へ送付するとともに、その写しを議事調査課に送付するものとする。
- (3) 担当課は、審査請求を認容（原処分全部又は一部の取消し）する裁決が行われたときは、当該裁決に基づき、速やかに、認容部分について開示決定を行い、開示請求者に通知するものとする。なお、第三者から反対意見書が提出されている場合で、開示決定を行うときは、当該第三者に対し、開示決定をした旨及びその理由並びに開示を実施する日を書面により通知すること、開示決定の日と開示を実施する日との間に少なくとも2週間を置かなければならないことに注意すること。
- (4) 担当課は、開示決定等又は第三者への書面による通知を行ったときは、これらの書類の写しを議事調査課に送付するものとする。

10 第三者から審査請求があった場合の取扱い

- (1) 第三者に関する情報が記録されている公文書に係る開示決定に対して当該第三者から審査請求があった場合には、審査請求が提起されただけでは開示の実施は停止されないものである（行政不服審査法第25条第1項）。したがって、公開窓口は、開示の実施を停止するためには審査請求と併せて執行停止の申立てをする必要がある旨（行政不服審査法第25条

第3項)を審査請求人に対して説明するものとする。

- (2) 第三者からの審査請求を却下し、又は棄却する裁決を行った場合は、当該第三者に訴訟提起の機会を確保するため、当該審査請求に係る裁決の日と開示を実施する日との間に少なくとも2週間を置かなければならないことに注意すること。

第10 ファイル管理簿

1 ファイル管理簿の作成及び写しの提出

担当課は、ファイル管理簿を作成し、その写しを翌年度の4月末日までに、議事調査課へ1部提出するものとする。

なお、担当課は、ファイル管理簿の写しの提出に当たっては、一般の閲覧に適するよう、当該ファイル管理簿に記載された個人名、法人名その他の情報のうち、非開示情報の内容が判明しないよう記載を簡略化するなど必要な措置を講ずるものとする。

2 ファイル管理簿の写しの配置

議事調査課においては、担当課が管理するファイル管理簿の写しを整備し、公開窓口に備え置いて、一般の閲覧に供するものとする。

第11 実施状況の公表

1 実施状況の取りまとめ

議事調査課は、毎年度の公文書の開示についての実施状況を取りまとめるものとする。

2 公表の方法

議事調査課は、毎年度4月末日までに、次の事項について、前年度の実施状況を岩手県報に登載することにより、公表するものとする。

- (1) 開示請求の件数及びその内訳
- (2) 開示決定等の件数及びその内訳
- (3) 審査請求の件数及びその概要
- (4) 情報公開に関する訴訟の概要
- (5) その他必要な事項

3 開示請求の記録

議事調査課では、開示請求に係る相談等の状況を記録しておくものとする。

附 則

この要綱は、平成12年6月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年4月15日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年11月9日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

年 月 日

岩手県議会議長

様

郵便番号
ご住所
ふりがな
お名前
法人その他の団体
にあつては、主たる
事務所の所在地
及び名称並びに代
表者のお名前
連絡先（電話番号）

公文書開示請求書

岩手県議会情報公開条例第5条の規定に基づき、次のとおり公文書の開示を請求します。

公文書の名称その他の公文書を特定するに足りる事項	
開示の実施の方法	1 文書又は図画の場合 <input type="checkbox"/> 閲覧 [これに引続く写しの交付の希望 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無] <input type="checkbox"/> 写しの交付 [<input type="checkbox"/> 窓口での交付 <input type="checkbox"/> 郵送による交付] 2 電磁的記録の場合 <input type="checkbox"/> 複製物の交付 [<input type="checkbox"/> 窓口での交付 <input type="checkbox"/> 郵送による交付] (複製物の区分 <input type="checkbox"/> フレキシブルディスクカートリッジ (FD) <input type="checkbox"/> 光ディスク (CD-R) <input type="checkbox"/> 光ディスクカートリッジ (MO) <input type="checkbox"/> 録音テープ <input type="checkbox"/> ビデオテープ) <input type="checkbox"/> 紙その他これに類するものに印字し、又は印画したものの閲覧 [これに引続く写しの交付の希望 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無] <input type="checkbox"/> 紙その他これに類するものに印字し、又は印画したものの写しの交付 [<input type="checkbox"/> 窓口での交付 <input type="checkbox"/> 郵送による交付] <input type="checkbox"/> 視聴
備 考	

備考1 「開示の実施の方法」欄の記載は、請求される方の任意です。

2 のある欄は、該当する にレ印を付してください。

3 連絡先（電話番号）は、今後の手続等についてご連絡する場合がありますので、必ず記載してください。

第 年 月 日
 号 日

様

岩手県議会議長

印

開示決定等期間延長通知書

年 月 日付けで請求のありました公文書の開示について、岩手県議会情報公開条例第12条第2項の規定に基づき、次のとおり開示決定等の期限を延長します。

公文書の表示	
延長前の期間	年 月 日 から (15 日間) 年 月 日 まで
延長後の期間	年 月 日 から (日間) 年 月 日 まで
延長の理由	
担当課	係等名 電話番号 () — 内線
備考	

様

岩手県議会議長

印

開示決定等期間特例延長通知書

年 月 日付けで請求のありました公文書の開示について、岩手県議会情報公開条例第13条の規定に基づき、次のとおり開示決定等の期限を延長します。

公文書の表示	
開示請求があった日から起算して45日以内に開示決定等をする部分	
条例第13条を適用する理由	
残りの公文書について開示決定等をする期限	年 月 日
担当課	係等名 電話番号（ ） — 内線
備考	

様

岩手県議会議長

印

公文書開示決定通知書

年 月 日付けで請求のありました公文書の開示について、次のとおり開示することと決定しましたので通知します。

公文書の表示			
開示を実施する日時	年 月 日 午前／午後 時 分		
開示を実施する場所			
手数料等	合計		
	(内訳)	開示請求手数料	
		開示実施手数料	
		送付料	
開示の実施の方法等の申出に関する事項	希望される開示の実施の方法等について、別紙開示方法等申出書により、年 月 日までに申出をしてください。なお、開示請求書に開示の実施の方法を記載している場合で、これに変更がないときは、申出は不要です。		
担当課	電話番号 () -	係名	内線
備考			

- 備考1 開示請求手数料は、開示請求に係る公文書1件につき生じる手数料であり、開示実施手数料は、公文書の種別ごとに開示の実施の方法に応じ生じる手数料です。詳しくは、岩手県議会情報公開条例（平成11年岩手県条例第61号）の別表をご覧ください。
- 2 公文書の写し等の送付を希望される場合は、送付に要する費用を負担していただきます。
- 3 指定された日までに開示の実施の方法等を申し出ることができないとき又は指定された開示を実施する日時に都合が悪いときは、あらかじめ担当課へご連絡ください。
- 4 公文書の開示を受ける際には、この通知書を提示してください。

様

岩手県議会議長

印

公文書部分開示決定通知書

年 月 日付けで請求のありました公文書の開示について、次のとおり公文書の一部を除いて開示することと決定しましたので通知します。

公文書の表示			
開示を実施する日時	年 月 日 午前／午後 時 分		
開示を実施する場所			
手数料等	合計		
	(内訳)	開示請求手数料	
		開示実施手数料	
	送付料		
開示の実施の方法等の申出に関する事項	希望される開示の実施の方法等について、別紙開示方法等申出書により、年 月 日までに申出をしてください。なお、開示請求書に開示の実施の方法を記載している場合で、これに変更がないときは、申出は不要です。		
開示をしない部分			
上記部分を開示しない理由			
担当課	電話番号 () -	係名 内線	
備考			

- 備考1 この処分不服がある場合は、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内に、岩手県議会議長に対して書面をもって審査請求をすることができます。（なお、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内であっても、この処分があった日の翌日から起算して1年を経過すると、審査請求をすることができなくなります。）
- 2 この処分については、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内に、県を被告として（訴訟において県を代表する者は、岩手県議会議長になります。）、処分の取消しの訴えを提起することができます。（なお、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内であっても、この処分があった日の翌日から起算して1年を経過すると、処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。）ただし、上記1の審査請求をした場合には、当該審査請求に対する裁決があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内に、処分の取消しの訴えを提起することができます。
- 3 開示請求手数料は、開示請求に係る公文書1件につき生じる手数料であり、開示実施手数料は、公文書の種別ごとに開示の実施の方法に応じ生じる手数料です。詳しくは、岩手県議会情報公開条例（平成11年岩手県条例第61号）の別表をご覧ください。
- 4 公文書の写し等の送付を希望される場合は、送付に要する費用を負担していただきます。
- 5 指定された日までに開示の実施の方法等を申し出ることができないとき又は指定された開示を実施する日時に都合が悪いときは、あらかじめ担当課へご連絡ください。
- 6 公文書の開示を受ける際には、この通知書を提示してください。

様

岩手県議会議長

印

公文書非開示決定通知書

年 月 日付けで請求のありました公文書の開示について、次のとおり開示をしないことと決定しましたので通知します。

公文書の表示	
開示をしない理由	
開示請求手数料	
担 当 課	電話番号（ ） 係等名 内 線
備 考	

備考1 この処分不服がある場合は、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内に、岩手県議会議長に対して書面をもって審査請求をすることができます。（なお、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内であっても、この処分があった日の翌日から起算して1年を経過すると、審査請求をすることができなくなります。）

2 この処分については、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内に、県を被告として（訴訟において県を代表する者は、岩手県議会議長になります。）、処分の取消しの訴えを提起することができます。（なお、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内であっても、この処分があった日の翌日から起算して1年を経過すると、処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。）ただし、上記1の審査請求をした場合には、当該審査請求に対する裁決があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内に、処分の取消しの訴えを提起することができます。

3 非開示決定の場合は、開示請求手数料のみ納付していただきます。

様

岩手県議会議長

印

公文書の開示に係る意見について（照会）

岩手県議会情報公開条例に基づき、次のとおり_____に関する情報が記録された公文書について開示の請求がありました。

つきましては、当該公文書を開示するかどうかの決定を行うに当たり、ご意見をお聴きしたいので、別紙「公文書の開示に関する意見書」にご記入のうえ、ご返送くださるようお願いします。

<p>公文書の表示</p>	<p>(公文書に記録されている情報の内容)</p>
<p>意見書の提出先</p>	
<p>意見書の提出期限</p>	<p>年 月 日</p>
<p>担 当 課</p>	<p>係等名 電話番号 () - 内 線</p>
<p>備 考</p>	

【別紙】

年 月 日

岩手県議会議長

様

ご住所
お名前
法人その他の団体
にあつては、主たる
事務所の所在地
及び名称並びに代
表者のお名前
連絡先（電話番号）

公文書の開示に関する意見書

年 月 日付けで照会のあつたこのことについて、次のとおり意見を申し述べます。

公文書の表示	
ご 意 見	
1 開示することについて支障がない。 2 開示することについて支障がある。 (1) 支障がある部分 (2) 支障がある理由	

備考1 「意見」欄は、該当する番号を○印で囲んでください。

2 「2」を○印で囲んだ場合には、「(1)支障がある部分」欄及び「(2)支障がある理由」欄も記載してください。

(A4)

様

岩手県議会議長

印

公文書の開示について

先に照会しました_____に関する情報が記録されている公文書については、次のとおり開示することとしましたので、通知します。

公文書の表示	
	(開示することとした情報の内容等)
開示することとした理由	
開示を実施する日	年 月 日
担当課	電話番号 () 係等名 — 内 線
備考	

備考1 この処分に不服がある場合は、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内に、岩手県議会議長に対して書面をもって審査請求をすることができます。(なお、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内であっても、この処分があった日の翌日から起算して1年を経過すると、審査請求をすることができなくなります。)

2 この処分については、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内に、県を被告として(訴訟において県を代表する者は、岩手県議会議長になります。)、処分の取消しの訴えを提起することができます。(なお、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内であっても、この処分があった日の翌日から起算して1年を経過すると、処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。)ただし、上記1の審査請求をした場合には、当該審査請求に対する裁決があったことを知った日の翌日から起算して6箇月以内に、処分の取消しの訴えを提起することができます。

岩手県議会議長 様

ご住所
お名前

法人その他の団体にあ
っては、主たる事務所
の所在地及び名称並び
に代表者のお名前

連絡先（電話番号）

開示方法等申出書

岩手県議会情報公開条例第16条第2項の規定により、次のとおり開示の実施の方法等について申し出ます。

申出に係る開示 決定等	年 月 日 第 号
	(公文書の表示)
開示の実施の方法	1 文書又は図画の場合 <input type="checkbox"/> 閲覧 [これに引続く写しの交付の希望 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無] <input type="checkbox"/> 写しの交付 [<input type="checkbox"/> 窓口での交付 <input type="checkbox"/> 送付による交付] 2 電磁的記録の場合 <input type="checkbox"/> 複製物の交付 [<input type="checkbox"/> 窓口での交付 <input type="checkbox"/> 送付による交付] <input type="checkbox"/> 紙その他これに類するものに印字し、又は印画したものの閲覧 [これに引続く写しの交付の希望 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無] <input type="checkbox"/> 紙その他これに類するものに印字し、又は印画したものの写しの交付 [<input type="checkbox"/> 窓口での交付 <input type="checkbox"/> 送付による交付] <input type="checkbox"/> 視聴
開示を求める部分	
備考	

備考1 「開示を求める部分」欄は、開示決定等に係る公文書のうち、一部分についてだけ開示を求める場合に記載してください。これ以外の場合は、記載は不要です。

2 のある欄は、該当するに 印を付してください。

3 連絡先（電話番号）は、今後の手続等についてご連絡する場合がありますので、必ず記載してください。

(A4)

様

岩手県議会議長

印

開示実施日等通知書

年 月 日付けで開示の実施の方法等について申出のありました公文書について、次のとおり開示を実施しますので通知します。

公文書の表示			
開示を実施する日時	年	月	日 午前／午後 時 分
開示を実施する場所			
手数料等	合計		
	(内訳)	開示請求手数料	
		開示実施手数料	
	送付料		
担当課	電話番号 () -		係名 内線
備考			

- 備考1 開示請求手数料は、開示請求に係る公文書1件につき生じる手数料であり、開示実施手数料は、公文書の種別ごとに開示の実施の方法に応じ生じる手数料です。詳しくは、岩手県議会情報公開条例（平成11年岩手県条例第61号）の別表をご覧ください。
- 2 公文書の写し等の送付を希望される場合は、送付に要する費用を負担していただきます。
- 3 指定された開示を実施する日時に都合が悪いときは、あらかじめ担当課へご連絡ください。
- 4 公文書の開示を受ける際には、公文書開示決定通知書（公文書部分開示決定通知書）を提示してください。

岩手県議会議長 様

ご住所
お名前

法人その他の団体にあ
っては、主たる事務所
の所在地及び名称並び
に代表者のお名前

連絡先（電話番号）

公文書の写し等の交付等申込書

年 月 日付け 第 号で通知のあった公文書について、次のとおり写し等の交付等を申し込みます。

公文書の表示	区 分	単 位	金 額
	1 写しの交付 2 複製物の交付 3 紙等に出力した ものの写しの交付 4 閲覧		円
	1 写しの交付 2 複製物の交付 3 紙等に出力した ものの写しの交付 4 閲覧		円
	1 写しの交付 2 複製物の交付 3 紙等に出力した ものの写しの交付 4 閲覧		円
小	計		円
送	付	料	円
合	計		円

備考 1 太線内のみ記載してください。

2 「区分」欄は、該当する番号を○印で囲んでください。

職員記載欄

備考	出納員	出納員補佐
----	-----	-------

様式第 11 号（第 7 の 2（1）関係）

手数料等領収票（公文書）

年 月 日

納入者お名前		
摘 要	手数料	円
	送付料	円
上記のとおり領収しました。		
出納員		印

(A 5)

年 月 日

岩手県議会議長

様

ご住所
お名前

 法人その他の団体
 にあっては、主た
 る事務所の所在地
 及び名称並びに代
 表者のお名前
 連絡先（電話番号）

文 書 提 供 申 込 書

岩手県議会情報公開事務取扱要綱第 8 条の 4 の規定により公文書の写し等の提供を次のとおり申し込みます。

公文書名	区分	写し等の枚数	金 額
	1 写しの交付 2 複製物の交付 3 紙等に出力したものの写しの交付	枚	円
	1 写しの交付 2 複製物の交付 3 紙等に出力したものの写しの交付	枚	円
	1 写しの交付 2 複製物の交付 3 紙等に出力したものの写しの交付	枚	円
小 計		枚	円
公文書の写し等の送付希望		有・無	円
合 計			円

備考 太線内のみ記入してください。

職員記載欄

備 考		出納員	出納員補佐
--------	--	-----	-------

第 年 月 日 号

様

岩手県議会議長

印

岩手県議会情報公開審査会調査依頼通知書

年 月 日付けで審査請求のありました事案については、次のとおり岩手県議会情報公開審査会に意見を求めましたので通知します。

審査請求の対象となった開示決定等又は開示請求に係る不作為	年 月 日 第 号
	(公文書の表示)
調査を依頼した日	年 月 日
担 当 課	係等名 電話番号 () ー 内 線
備 考	